

福島で出会った「学び」と「問い」

～フィールドスタディで見つけた探究活動の種～

兵庫県立宝塚北高等学校

◎ 1 年 さかしたさくらこ にしかわなずな ちん かずお わたなべあきお ほ き や ま はるか こんどうみずは
坂下桜子、西川奈沙、陳 一夫、渡辺朗生、甫喜山 遥、近藤瑞葉

キーワード

福島、東日本大震災、原子力災害、復興、対話、探究活動



研究概要

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故から 15 年が経過した現在、私たちは教科書やニュースを通して震災や復興について学んできた。しかし、その知識は現地で暮らす人々の思いや現在の福島の姿を十分に理解したものとは言えない。そこで、本校では福島県を訪れ、地域の方々との交流や現地での体験を通して、震災・復興・地域づくりについて学ぶフィールドスタディを実施する。

本研修では、震災遺構や復興関連施設の見学、地域で活動されている方々との対話、フィールドワークなどを通して、多様な立場から福島の現状を学ぶ。現地で見聞きしたことを整理し、それぞれが感じた疑問や気づきを共有することで、震災や復興に対する理解を深めることを目指す。

本発表では、研修を通して得られた学びを報告するとともに、そこから生まれたリサーチクエストや探究の視点について紹介する。また、フィールドスタディが単なる研修ではなく、探究活動の出発点としてどのような役割を果たしたのかを考察し、現地で学ぶことの意義について報告する。

アピールポイント

福島でさまざまな施設の見学や地域の方との対話を通して、私たちがどのような問題を発見し、探究の種を見つけてきたかについてお話します。多くの専門家の方に聞いていただき、ご意見を頂けたら嬉しいです。